

「地域で支える、こどもたちの今と未来」

一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき 事務局長 山本 倫子

みなさん「こどもの居場所」ってどんな所だと思いますか？

子ども食堂・フリースクール・学習室・プレーパーク等いろいろな居場所が頭に浮かぶのではないのでしょうか。

あらゆるこどもたちを対象とした「居場所」、不登校・虐待・発達障害など困難なケースに対応する「居場所」など、こどもの居場所は多種多様です。

私たちが運営している「居場所」は課題があるご家庭に対応した子ども食堂、こどもたちの生きる力をはぐくむ第三の居場所、塾に行きたいけど経済的な理由でいく事が出来ないこどもたちへ学習の機会を作る学習室、「食」を入口に家庭全体を様々な関係機関でつながり支える宅食があります。

私が居場所で出会ってきたこどもたちは様々な家庭の環境や課題があります。こどもたちが抱えている問題は決して一つではなく「つながり」「生きていく力」「学びの環境」「将来の不安」などが複雑に絡み合っており、こどもが大人に

なるために必要な経験や機会が奪われている現状がありました。そこで私たちは、こどもたちが自立していく中で、その経験や機会が奪われてしまう可能性があるこどもたちに対して、一人ひとりにとって必要となる、あるいは生きていくうえで人との関わりで得られる体験機会がある「居場所」を作りこどもたちと過ごしています。

こんな話を聞くと「居場所」って専門の人がするものなの？と思われる方もいると思いますが、そうではありません。ある居場所では、小学校低学年の男の子が80代のボランティアさんの腕に触れて「やわらかい・・ホッとする」と言ってウトウトする場面がありました。「居場所」はこどもたち一人ひとりの「ホッ」と安心することが大切だと感じた瞬間でした。

これから長崎県の中に様々な「居場所」が出来てくと思います。こどもの権利を大切に、地域のこどもたちに必要な「居場所」が出来ていくことを楽しみにしています。

「こども居場所の意義、実践の中で感じていること」

NPO 法人 フリースクール クレイン・ハーバー 代表 中村 尊

長崎市でフリースクールを運営して20年、フリースクールは不登校のこどもにとって学びの場であると同時に居場所でもありました。「学びの場」と「居場所」と何が違うのか？もちろん、両方の役割を兼ねることもできますが、違いを言うならば「学びの場」には、「学ぶ」という目的があります。塾や習い事などは目的やすることがハッキリしているから「居場所」とは呼ばれません。「居場所」は、自分の存在をありのままに受け入れてくれる場所、何もしなくても安心していれる場所のような、その人にとって居心地のいい場所です。ドラマなどでお父さんが「俺には会社にも家にも居場所がない」などのセリフを言ったりしますが、「会社でも家でもありのままでは受け入れてもらえない。安心して居心地よく過せない」ということでしょう。

国において、令和5年12月に「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定され、こども家庭庁がリーダーシップを取り、こども・若者の声を聴きその視点に立った居場所づくりを推進していくこととなりました。国が「こどもの居場所」が大切だと宣言していると同時に、「今のこどもには居場所がない」という認識も伺えます。現代日本には「学校にも家にも居場所がない」こどもたちがいるのです。

学校が過度に競争や評価に晒される場所になっていたり、家では疲れて帰ってくる親に気を使ったり、中には家でも「すること」が多くて気が休まらない子もいるでしょう。こどもの頃からストレスの中で張りつめて暮らしていたら自己受容感も意欲も削ぎ落され、気力がなくなり生きることを楽しみを見出せなくなるのではないのでしょうか？

以前、フリースクールの卒業生がふらっと遊びに来たときのこと、「実家感が半端ない！」と言ってゴロンと寝転がりました。久しぶりに顔を見せに来ただけでなく、自分を取り戻しに来たみたいでした。自分をありのまま受け入れられ安心してくつろげ、現代社会のストレスから一時でも解放される居場所があれば自己受容感も意欲も取り戻せると、これまでフリースクールに通ってきたこどもたちの様子から感じます。

居場所には「窓」の機能も必要です。安心してそこに居ながら外の景色(社会)を見れる、社会を知れる・つながれる役割です。この点についてだけでも話せば長くなり、到底ここで与えられた文字数では伝えきれません。こどもの居場所が増え、かつその質が確保されることが地域にとって大切です。そのためにこどもの居場所に関わる地域のおとながつながりあい支え合い、学び合っていきましょう。